

平成29年度 第2回研修会の記録

開催日 平成29年 6月25日

研修テーマ	「樹木と微生物の共生関係」 ～樹木へ寄生するナラタケ属菌から樹木と共生する菌根菌について～	参加者	埼玉県支部 31名 他府県支部 29名
講師	松下範久 氏 東京大学大学院農学生命科学研究科準教授	場所	「With You さいたま」視聴覚教室
資料	樹木と微生物の共生関係	記録	田窪隆彦
目的	森林や緑地に生息し、樹木と密接に関わりを持つ多様な菌類、その生態についての見識を高め、樹勢回復を図る際の土壌環境整備に役立てる。		

研修内容

菌類の分類、森林における菌類の役割、ナラタケ属菌、菌根菌について、パワーポイント、サンプルを使用した座学。

森林における菌類の重要な役割として、植物遺体の分解(腐生)、林冠ギャップの形成(寄生)、菌根の形成(共生)があげられ、その中でも多様な生態的特徴をもつナラタケ属菌と、樹木の成長を地下から支えている菌根菌について詳しく学んだ。最後に小テストがあり、理解度の確認を行なった。

【ナラタケ属菌】

腐生、寄生、共生と多様な生態的特徴をもつナラタケ属菌は、森林の物質循環や林冠ギャップの形成に関与する重要な生物のひとつであるが、一方では健全な樹木に侵入し、その個体を衰弱・枯死させる病原菌として、被害が各地で発生している。そのナラタケ属菌の分類、同定、生態、繁殖様式、ならたけ病の診断・防除について詳しく学んだ。



講義風景(菌類の分類)



講義風景(ならたけ病の伝染経路)

【菌根菌】

植物と菌類が恒常的に共生生活を営むために形成される菌根、その中で森林や緑地にもっとも普通に見られるアーバスキュラー菌根と外生菌根について、その形態的特徴や機能を詳しく学んだ。



ナラタケ属菌の子実体サンプル



講義風景(菌根菌について)